

イタセンパラはどこへ…

おも せいそくち しろきた ぐん
イタセンパラの主な生息地、城北ワンド群



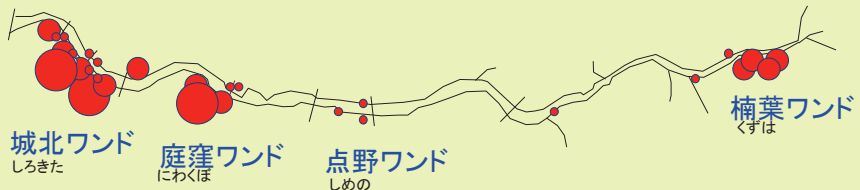
よどがわ
かつて、淀川のイタセンパラはワンド
ちゆうしん せいそく
を中心に生息していました。しかし、大
きぼ かせん かいしゅう おこな
規模な河川改修が行われ、ほとんどのワ
うしな さいご
ンドは失われました。最後までイタセン
せいそく しろきた ぐん
パラが生息していた城北ワンド群でも、
がいらいせいぶつ ぞうか こたいすう げんしょう
外来生物の増加などにより個体数は減少
ねん さいご
しました。2005年を最後にイタセンパラ
み
は見られなくなり、翌年には「淀川でイ
よどがわ
タセンパラ確認されず」のニュースが、
しんぶん なが
新聞やテレビで流れました。

よどがわ 淀川でのイタセンパラの分布

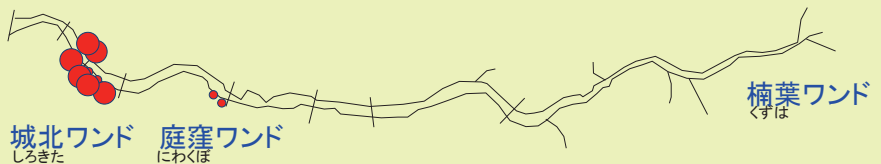
1971～72年
(昭和46～47年)



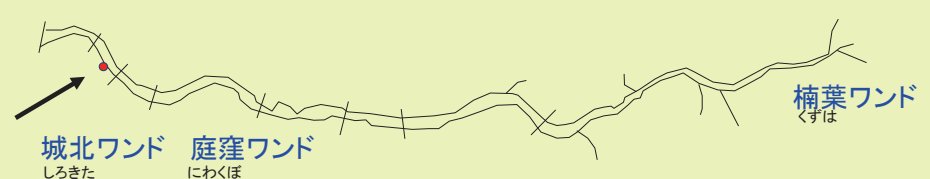
1984年
(昭和59年)



1993年
(平成5年)



2004年
(平成16年)



● 1-9尾 ● 10-99尾 ● 100尾以上

とうじ しろきた 当時の城北ワンド



イタセンパラが^み見られなくな^{ねん}った2006年に、城北^{しろ きた}ワンド群^{ぐん}のうち1カ所^{しょ}のワンドの水^{みず}をすべて^ぬ抜き、魚^{ぎよ}類^{るい}調査^{ちよう さ}が行^{おこな}われました。

その結果^{けつ か}は、予想^{よ そう}をはるかに^こ超えるものでした。

ねん ぎよるいちようさ けつ か 2006年魚類調査の結果



- ブルーギル 89.3%
- フナ類 4.6%
- カダヤシ 1.4%
- オオクチバス 0.9%

なんと捕獲^{ほ かく}された魚^{さかな}の9割^{わり い じょう}以上は、肉食性^{にく しょく せい}のブルーギルなどの「外来^{がい らい}魚^{ぎよ}」とよばれる、人間^{にんげん}によってちがう場所^{ばしょ}からもちこまれた魚^{さかな}でした。これら外来^{がい らい}魚^{ぎよ}は、もともと淀川^{よどがわ}にはいない魚^{さかな}です。イタセンパラを含^{ふく}めた淀川^{よどがわ}の魚^{さかな}は、外来^{がい らい}魚^{ぎよ}の大繁殖^{だい はん しょく}によって数^{かず}を減^{へら}らしていました。

よどがわ とくていがいらいせいぶつ

淀川の特特定外来生物

イタセンパラをはじめとした在来魚の生存をおびやかす存在として、オオクチバスやブルーギルなどの外来魚、ボタンウキクサやナガエツルノゲイトウなどの外来植物が問題となっています。とくに、外来生物法によって特定外来生物に指定されている種は、生態系に大きな影響を与えることから運搬や飼育などが厳しく制限されています。



オオクチバス 肉食性で、魚やエビなどを食べる。



ブルーギル 各地の池沼で繁殖。魚の卵や稚魚を食べる。



カダヤシ 卵ではなく稚魚を産み、繁殖力が強い。



ヌートリア 雑食性で、淡水二枚貝の食害も問題になっている。



ボタンウキクサ 繁茂すると水面を覆い、水質悪化の原因になる。



ナガエツルノゲイトウ 生長が速く、長期間の乾燥にも強い。

ふたた よど がわ およ 再び淀川に泳がせよう！

淀川のシンボルフィッシュを取り戻そう！イタセンパラを淀川に野生復帰させるプロジェクトが開始され、イタセンパラが最後まで確認されていた城北ワンドで、外来生物駆除作戦を実施しました。2009年12月から2012年3月の休日をのぞくほぼ毎日、外来生物の駆除作業が行われました。



がいらいぎよ ほかく
外来魚を捕獲するワナ



がいらいしよくぶつ くじよさぎょう
外来植物の駆除作業

その結果、ナガエツルノゲイトウなどの外来植物は約230トン、オオクチバスやブルーギルなどの外来魚は約153,000尾を駆除しました。



ワンドがきれいになった！

せつりつ イタセンネット設立！

よどがわ せいぶつたようせい ほぜん かいふく もくひょう しみんだんたい きぎょう だいがく きょうせい たよう
淀川の生物多様性の保全・回復を目標に、市民団体や企業、大学、行政など多様
な主体が連携して「淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク」（略称、イタセ
ンネット）が設立されました。市民の手によるイタセンパラ野生復帰を実現させる
べく、がいらいせいぶつ くじょ かせんせいそう ほぜんかつどう ねん かいし外来生物の駆除や河川清掃などの保全活動が2012年から開始されました。


イタセンネット

ていれいほぜんかつどう がつ がつ
イタセンネット定例保全活動（4月～11月）

しろきた だい どうようび だい にちようび にわくほ だい にちようび
城北ワンド：第1土曜日、第3日曜日 庭窪ワンド：第2日曜日

くわ
※詳しくは「イタセンネットブログ」（<http://itasennet.exblog.jp/>）をご覧ください！



よどがわすいけい ほぜんしみん れんけいだんたい
淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク連携団体



地方独立行政法人 大阪府立 環境農林水産総合研究所
Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries, Osaka Prefecture

かえ たんすいぎよ 帰ってきた淡水魚たち

がいらいせいぶつ くじょ けっか ふたた おお ざいらいしゅ み
外来生物の駆除の結果、ワンドで再び多くの在来種が見られるようになりました。
きんねん み
近年ほとんど見られなかったシロヒレタビラやカワヒガイ、ナマズなどの稚
ぎよ かくにん ざんねん ふたた すがた あらわ
魚も確認されました。残念ながら、イタセンパラが再び姿を現すことはありません
でしたが、とうしょ わり み ざいらいしゅ わり ていど かいふく
当初2割にも満たなかった在来種が7割程度にまで回復しました。



シロヒレタビラ



カネヒラ



コイ



ギンブナ



ゲンゴロウブナ



ワタカ



ハス



オイカワ



ウグイ



コウライモロコ



コウライニゴイ



タモロコ



カマツカ



ヨドゼゼラ



カワヒガイ



モツゴ



ナマズ



アユ



ボラ



シマヒレヨシノボリ

イタセンパラを淀川へ！

イタセンパラ放流！その前に…

外来魚の減少、在来魚の増加が確認され、イタセンパラ放流式の準備が進められました。ところが、放流式の10日前、大型台風の影響により淀川は増水し、放流予定のワンドも濁流に飲み込まれてしまいました。上流から流れてきた大量の砂や泥、流木やゴミなどが積もりました。ワンドに外来魚が侵入しているかもしれない…早く確認しなければ！と地引網を投入してみると、結果は予想外でした。外来魚は流入していたものの、在来魚の数も大幅に増加していました。そして再び、放流式に向けて調整が進められました。



大增水した淀川

淀川城北ワンド群イタセンパラ放流式

2013年10月10日。念願の放流式が行われました。地元の小学生などが、イタセンパラの親魚500尾をワンドに放流しました。「イタセンパラの稚魚に出会えますように」と願いを込めて、市民の手によるイタセンパラ野生復帰がスタートしました。



おかえり！イタセンパラ

ほうりゅうしき よくねん はる ちぎよ
放流式から翌年の春、イタセンパラの稚魚
び かくにん しみん て ほう
750尾が確認されました。市民の手によって放
りゅう しんぎよ たまご
流されたイタセンパラの親魚は、ちゃんと卵
う ほうりゅういこう げんざい よどがわ しろ
を産んでいました。放流以降、現在も淀川城
きた
北ワンドではイタセンパラがみられるように
なりました。



ねん かくにん ちぎよ
2017年に確認された稚魚

そして、2017年は放流以来最多となる
び ちぎよ かくにん ぜんねん ばいじょう かず ほうりゅう
8,888尾の稚魚が確認されました。前年の15倍以上の数です。これらは、放流し
たい せだいめ
たイタセンパラの第5世代目です。

イタセンパラは多くの人々の努力で守られてきた魚です。城北ワンドがある旭
く ねん く さかな いちづ ちいき たからもの たいせつ
区では、2017年に区の魚に位置付けるなど、地域の宝物として大切にされてい
わたし みちか たいせつ い し わたし て
ます。私たちの身近に大切な生きものがあることを知り、これからも私たちの手
まも
で守っていきましょう。

イタセンネットに参加しよう！

せいぶつたようせい どうろく じびきあみ つか がいらいせいぶつじよ かせんせいそう さんか
生物多様性センターサポートスタッフに登録すると、地曳網を使った外来生物駆除や河川清掃に参加できます。

ていれいほぜんかつどう がつ がつ
イタセンネット定例保全活動（4月～11月）

しろきた たい どうようび たい にちようび
城北ワンド：第1土曜日、第3日曜日

にわくぼ たい にちようび
庭窪ワンド：第2日曜日

※詳しくは「イタセンネットブログ」

(<http://itasennet.exblog.jp/>) をご覧ください！

